

北興化学工業株式会社

2021年11月期決算説明資料

2022年1月14日

東証第一部 証券コード4992

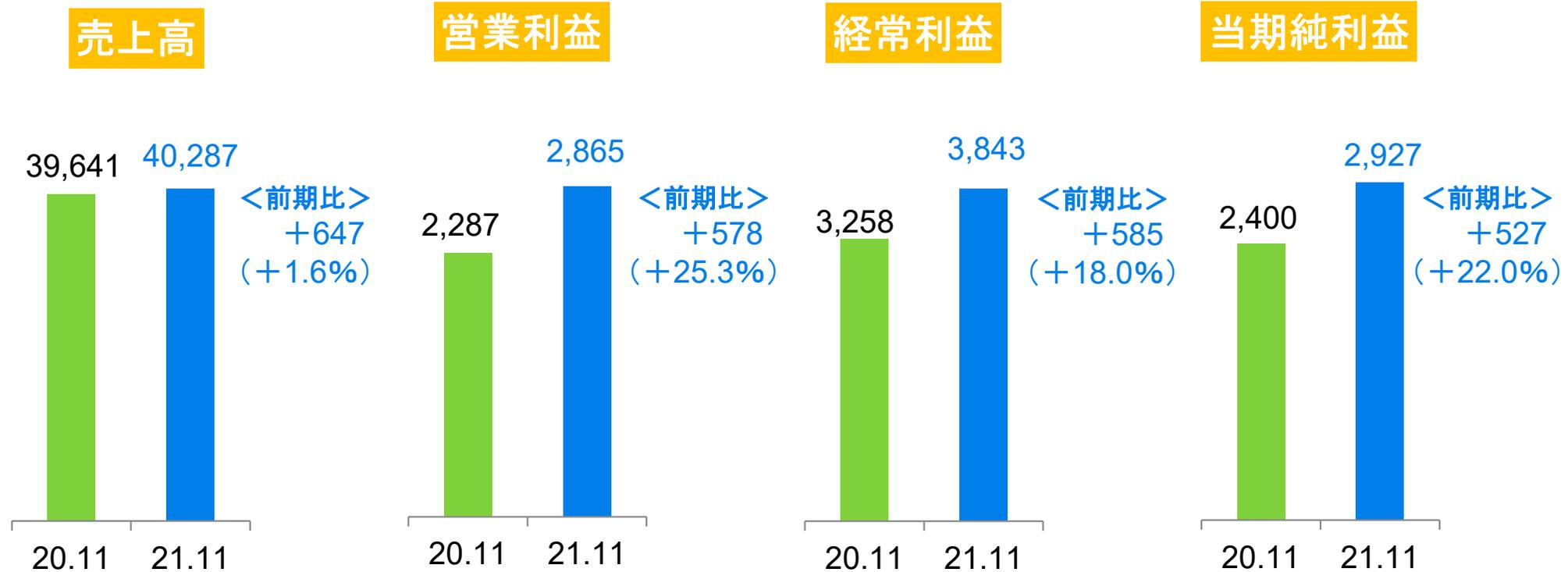
決算説明資料目次

I	2021年11月期決算ハイライト	2
II	2022年11月期連結業績予想	11
【参考資料】		
	2021年11月期決算時系列データ	15

I 2021年11月期決算ハイライト

I 2021年11月期決算ハイライト <①連結業績概況>

(単位:百万円)



<対前期比> 増収増益

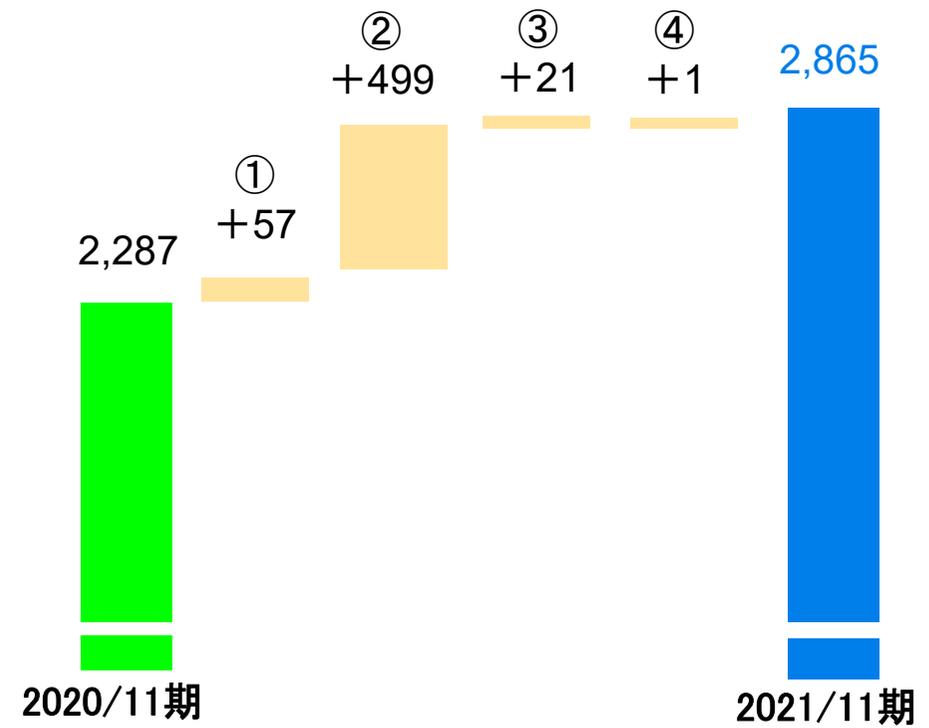
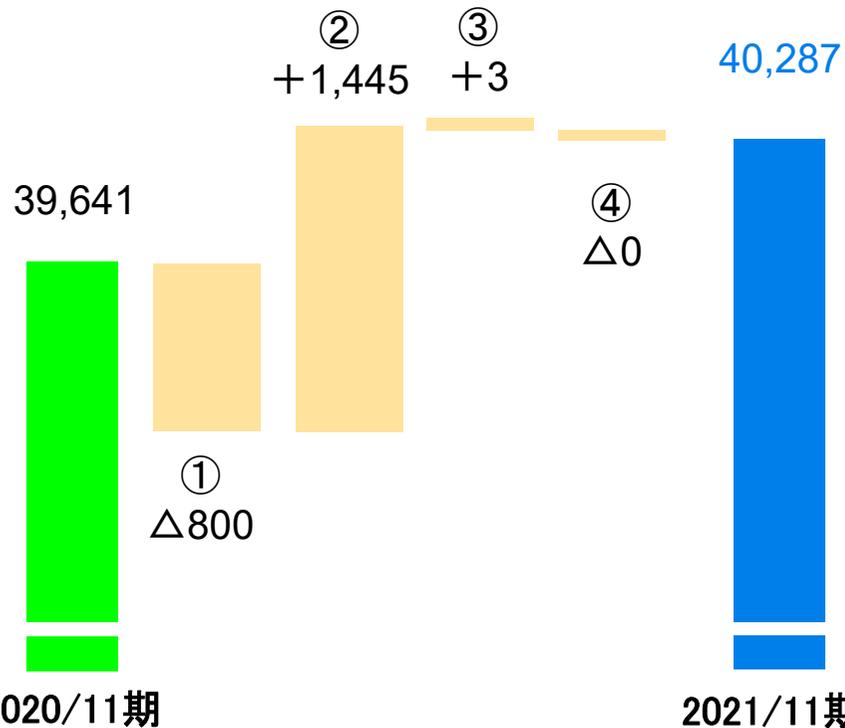
- 売上高 : 農薬事業における販売は減少したものの、ファインケミカル事業における販売が増加したことから、全体としては**増収**
- 営業利益 : 売上高の増加に加え、返品調整引当金の繰入額が減少したことや、販売費及び一般管理費の抑制に努めたことにより**増益**
- 経常利益 : 当社が株式を保有する海外企業からの配当金が前連結会計年度比383百万円減少したものの、円安の進展による為替差損益の改善+221百万円等により**増益**
- 当期純利益 : 親会社株主に帰属する当期純利益は**増益**

I 2021年11月期決算ハイライト <②連結業績 増減要因>

(単位:百万円)

売上高

営業利益



①農薬事業 Δ800百万円

海外販売におけるアジア向けの増加があったものの、国内販売にて海外からの原材料の入荷遅延等により減収

②ファインケミカル事業 +1,445百万円

主要3分野(医農薬、電子材料、樹脂)が好調に推移し増収

③繊維資材事業 +3百万円

ほぼ前期並み

④その他 Δ0百万円

①農薬事業 +57百万円

返品調整引当金の繰入額が減少し、販売費及び一般管理費の抑制に努め増益

②ファインケミカル事業 +499百万円

増収及び収益性の高い品目の販売により増益

③繊維資材事業 +21百万円

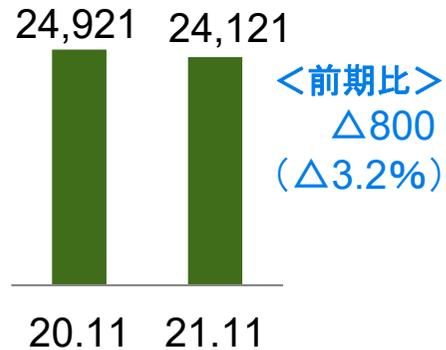
販売費及び一般管理費の抑制に努めたことにより増益

④その他 +1百万円

I 2021年11月期決算ハイライト <③連結業績:セグメント別>

(単位:百万円)

売上高

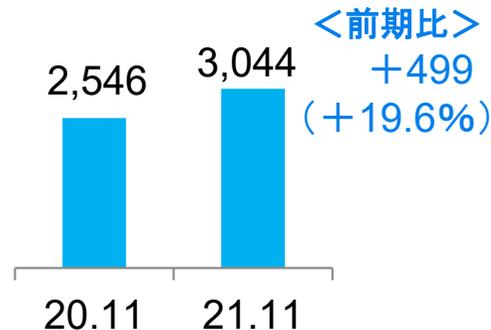
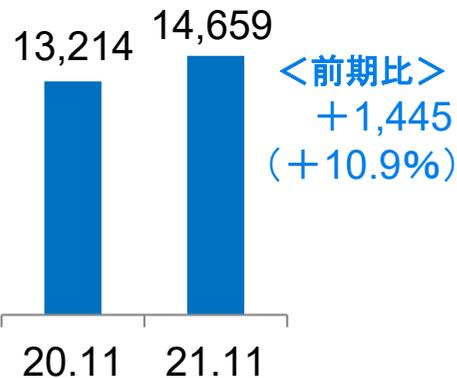


営業利益



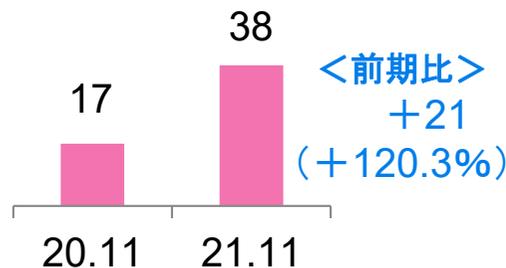
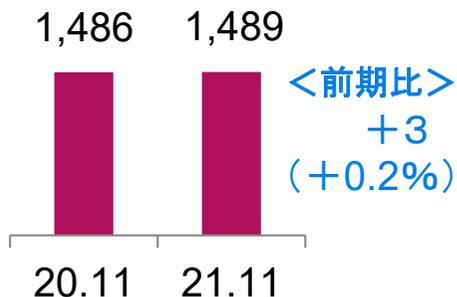
<農薬事業:対前期比>

- 売上高 : 海外販売におけるアジア向けの増加があったものの、国内販売において海外からの原材料入荷遅延等により減収。なお現在は原材料の調達は正常化している。
- 営業利益: 返品調整引当金の繰入額が減少し、販売費及び一般管理費の抑制に努め増益となるも、営業損失となった。



<ファインケミカル事業:対前期比>

- 売上高 : 主要3分野(医農薬、電子材料および樹脂)の販売が好調に推移したことから増収
- 営業利益: 増収及び収益性の高い品目の販売により増益



<繊維資材事業:対前期比>

- 売上高 : 産業用繊維資材分野では、主に欧米市場の家具向け需要が堅調に推移したものの、衣料品分野では、消費回復の遅れ等の影響もあり、ほぼ前連結会計年度並み
- 営業利益: 販売費及び一般管理費の抑制に努めたことにより 増益



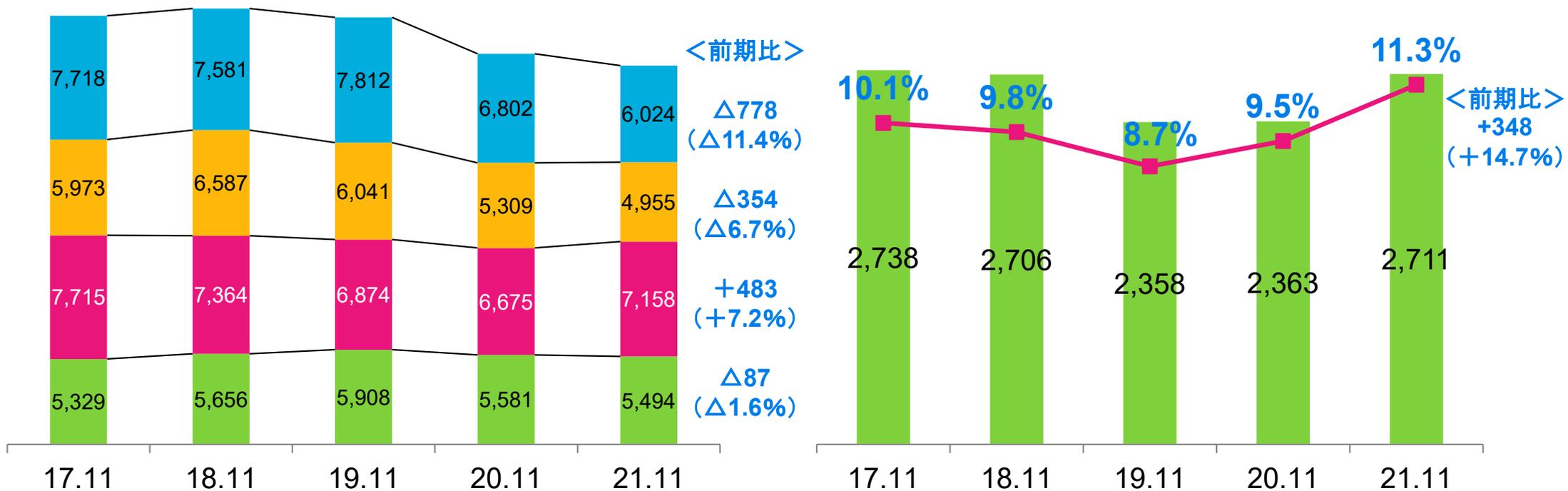
I 2021年11月期決算ハイライト <④農薬事業トピックス>

種類別(個別) (単位:百万円)

輸出(個別) (単位:百万円)

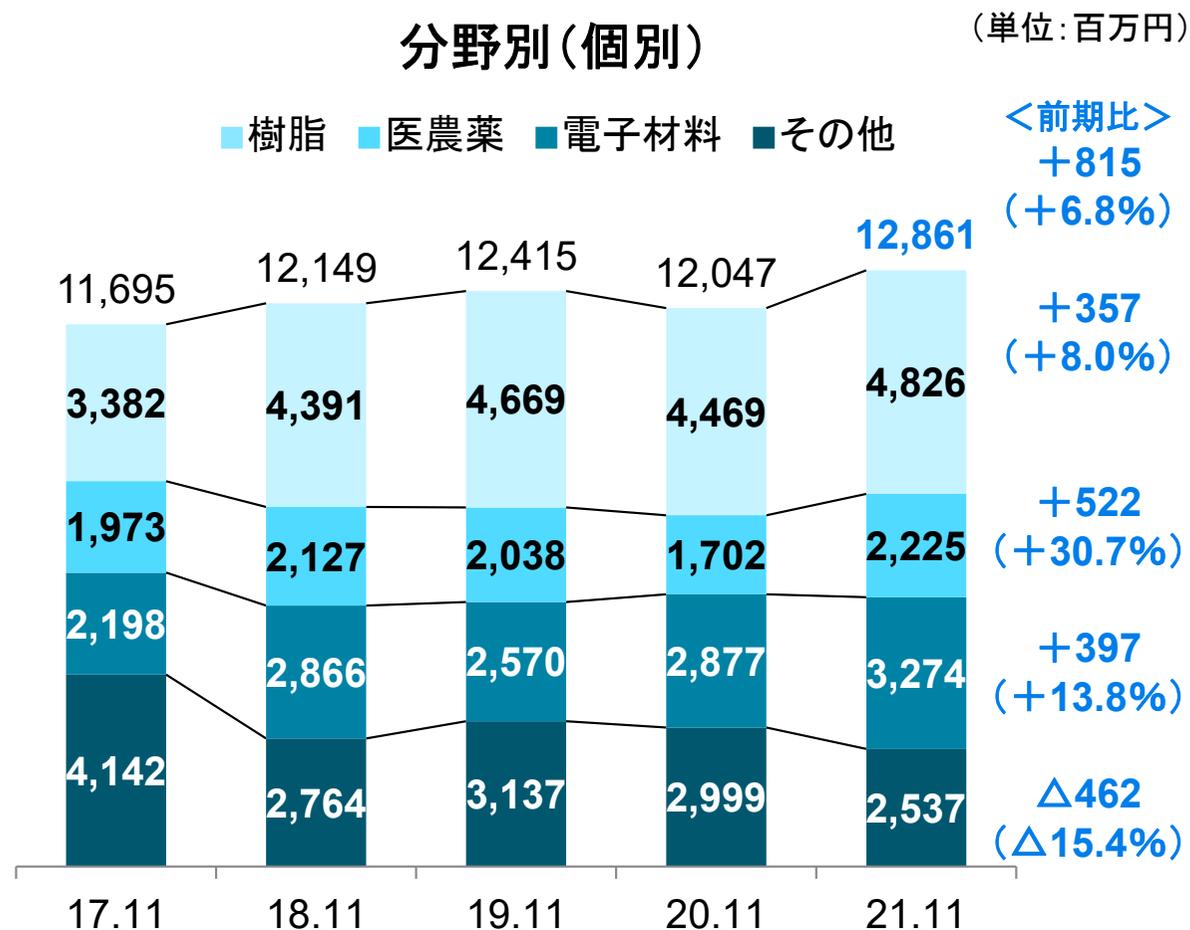
■ 殺虫剤 ■ 殺菌剤 ■ 殺虫殺菌剤 ■ 除草剤

■ 輸出 ■ 輸出割合



- 海外からの殺虫殺菌剤用の原材料入荷遅延や水稲用除草剤の防除暦変更による影響により減少
- 輸出売上高は主にインド、ベトナム等アジア向け販売の増加により増収となった。なお農薬事業における輸出割合は国内販売の減収の影響もあり上昇

I 2021年11月期決算ハイライト <⑤ファインケミカル事業トピックス>



<主な用途>

◇樹脂分野

- ・樹脂用原料
(塗料、コーティング剤 等)

◇医農薬分野

- ・医薬、農薬原料および中間体

◇電子材料分野

- ・半導体封止剤用の硬化促進剤
(CPU、メモリー 等)
- ・フォトレジスト用のモノマー原料
(KrF中心)
- ・有機EL 等

◇その他

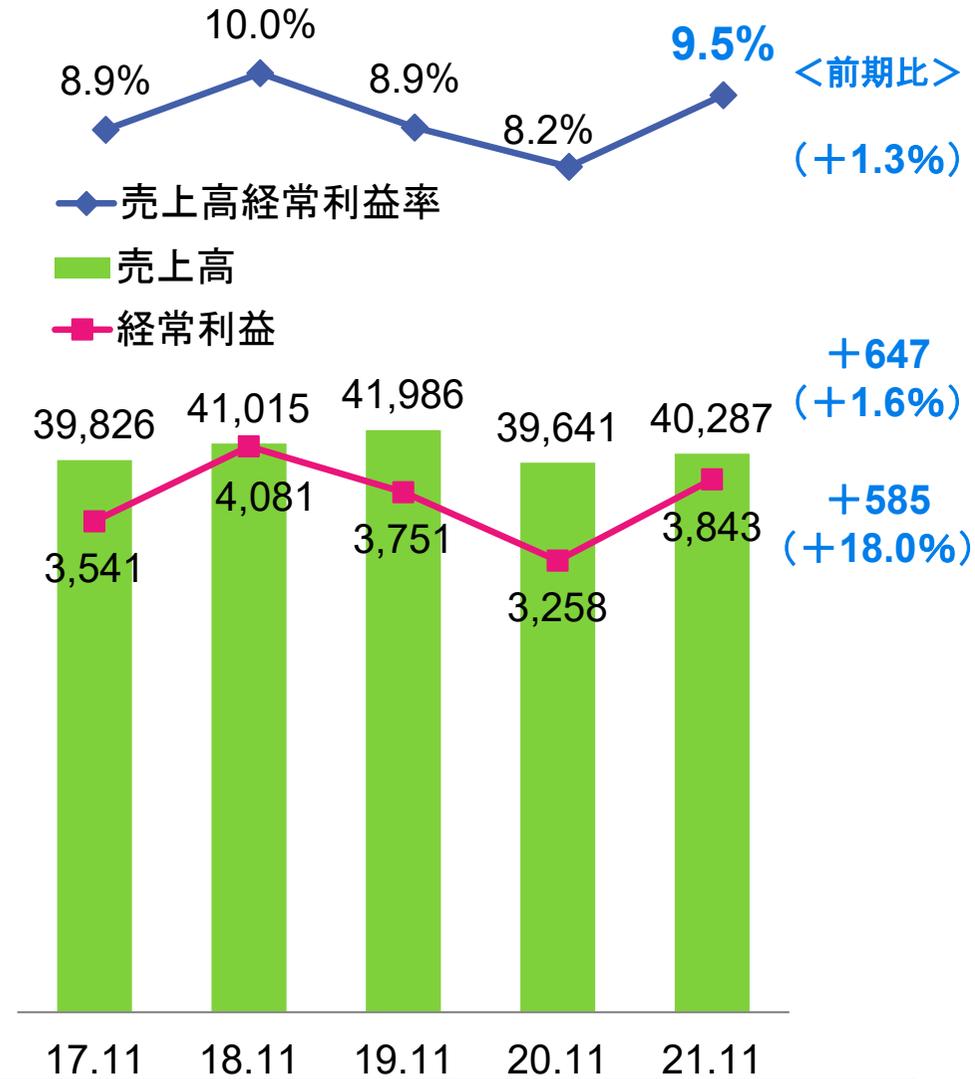
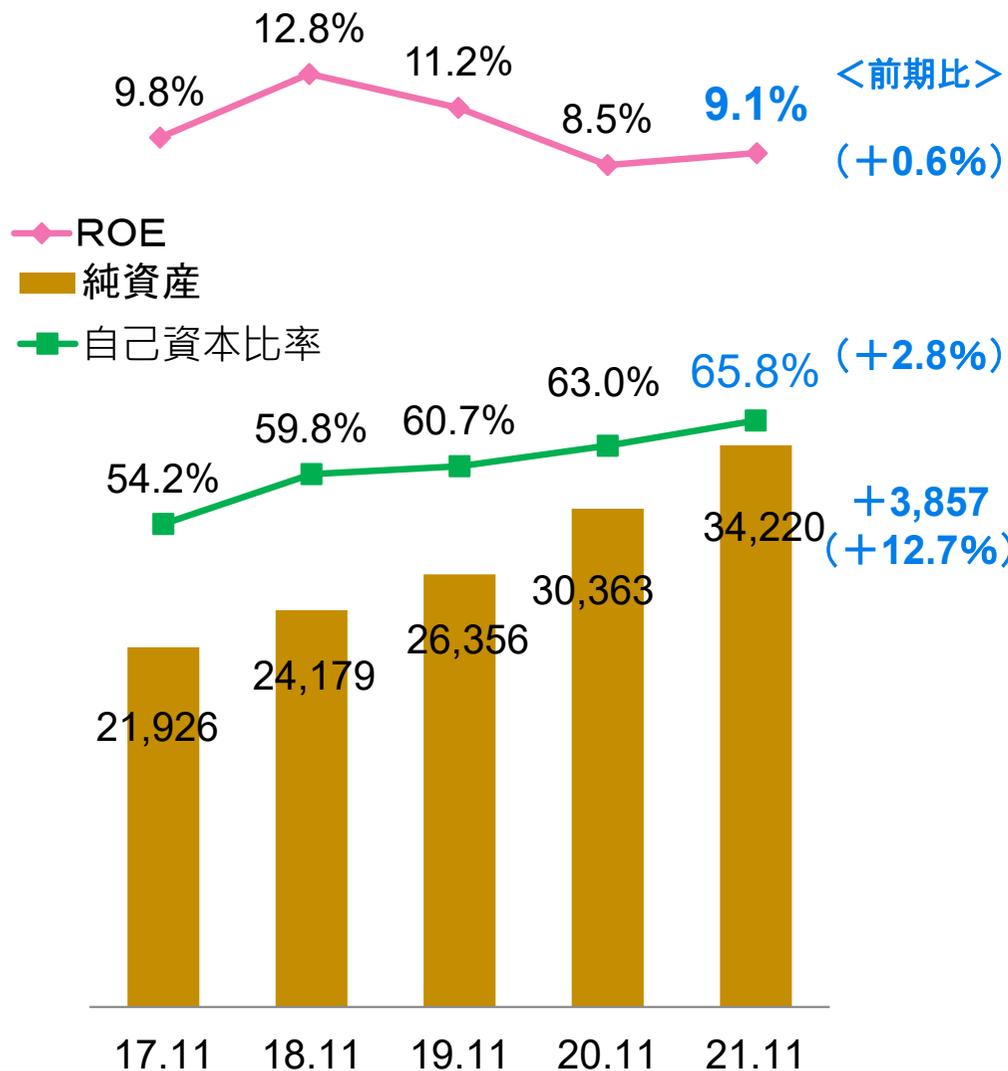
- ・食品飼料、化粧品、エネルギー 等

➤ 主要3分野(医農薬、電子材料および樹脂)の販売が順調に推移したことから、前年同期比で増収となりかつ営業利益率も20.8%へ向上(前年同期比+1.5%) ※19頁ご参照



I 2021年11月期決算ハイライト <⑦連結経営指標>

(単位:百万円)



- 2025年度までのKPIである、ROE8%以上、売上高経常利益率9%以上、自己資本比率60%以上、いずれの指標も達成しており、かついずれも前期比向上
- 自己資本比率は2011年11月期より11期連続上昇

I 2021年11月期決算ハイライト <⑧株主還元>

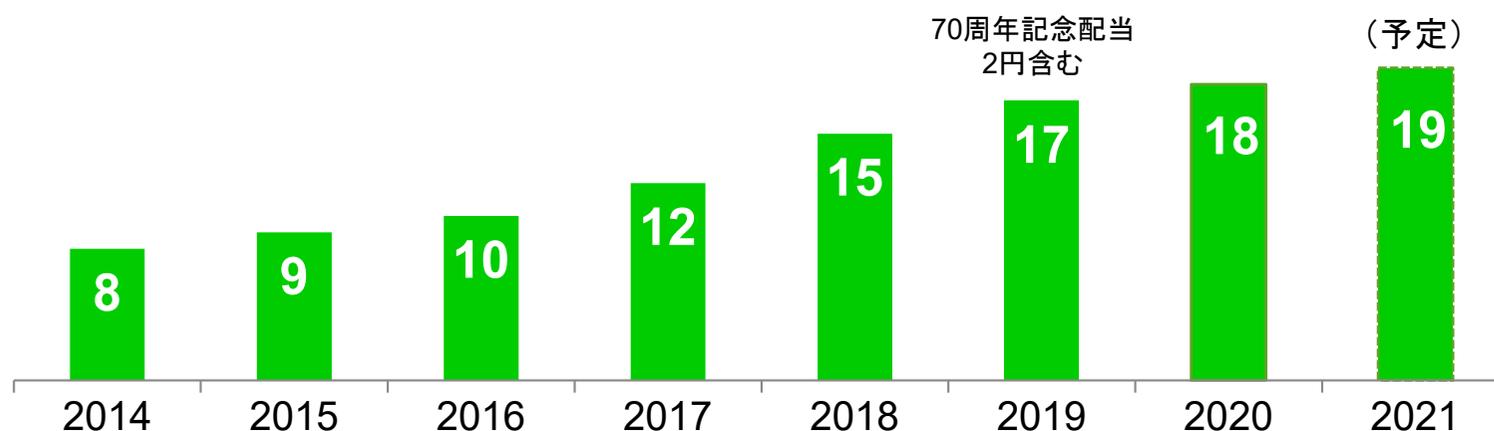
➤ (基本的な考え方)

安定的な利益配分の継続を基本方針とし、内部留保の蓄積や成長投資とのバランスを図りつつ、利益動向に応じた株主還元を実施する

《配当方針》

- 利益水準によらず過去から行ってきた安定配当を継続して実施する
- 収益状況に応じた増配を目指す

1株あたり配当金の推移(円)



配当性向	22.1%	13.1%	14.0%	16.5%	13.8%	16.3%	20.3%	17.6%
自己株式取得	—	—	—	3億円	—	—	—	—
総還元性向	22.1%	13.1%	14.0%	31.5%	13.8%	16.3%	20.3%	17.6%

Ⅱ 2022年11月期連結業績予想

□ 連結業績予想

(百万円)

	2021/11実績		2022/11予想		増減	増減率
売上高	40,287	(100%)	41,000	(100%)	+713	+1.8%
営業利益	2,865	(7.1%)	2,900	(7.1%)	+35	+1.2%
経常利益	3,843	(9.5%)	3,600	(8.8%)	△243	△6.3%
当期純利益	2,927	(7.3%)	2,650	(6.5%)	△277	△9.5%

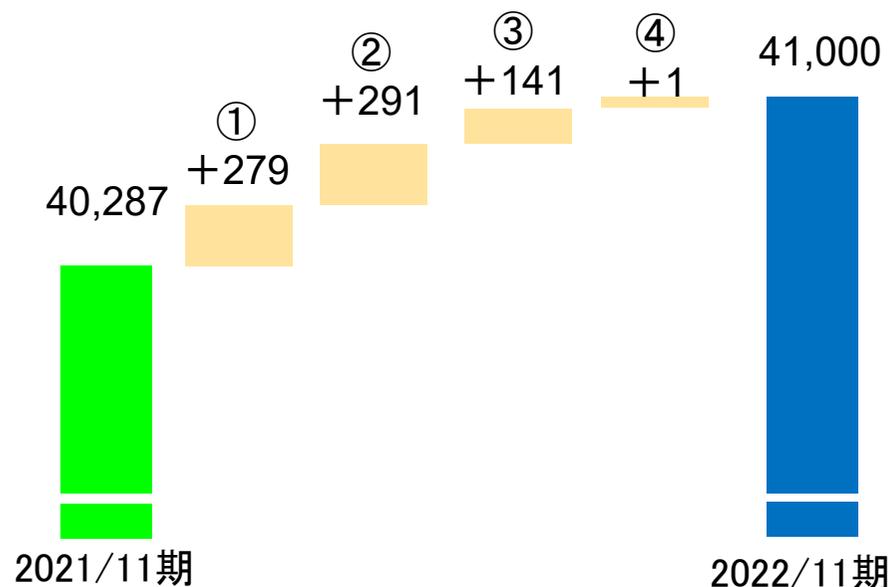
◆為替レート(1米ドル=)… 2021年:108.86円、2022年:110.00円

- 売上高は、主に農薬事業での国内販売および受託製造の回復やファインケミカル事業における樹脂および電子材料の事業環境が好調なことから、増収の見込み
なお、「収益認識に関する会計基準」の適用による影響額を約△1,000百万円程度を見込んでいる(利益に対する影響額は軽微)
- 営業利益は、コロナ状況改善を見込んだ活動増や農薬の再評価制度にかかわる委託研究費などの販売費及び一般管理費の増加により、前期並みの見込み
- 経常利益は、前期に計上した為替差益等を見込んでいないことから、減益の見込み
- 以上により、当期純利益は減益の見込み



□ 連結業績予想(売上高・営業利益増減見込)

売上高増減要因



①農薬事業 +279百万円

海外からの原材料の入荷遅延の解消による国内販売及び製造受託の回復、自社原体品(イプフェンカルバゾン等)や園芸新剤の販売拡大、農薬登録国拡大を含む海外販売拡大等により増収の見込み。新剤である楽粒(高拡散性粒剤)の新規販売も開始予定。「収益認識に関する会計基準」の適用による影響額は△650百万円程度を見込む

②ファインケミカル事業 +291百万円

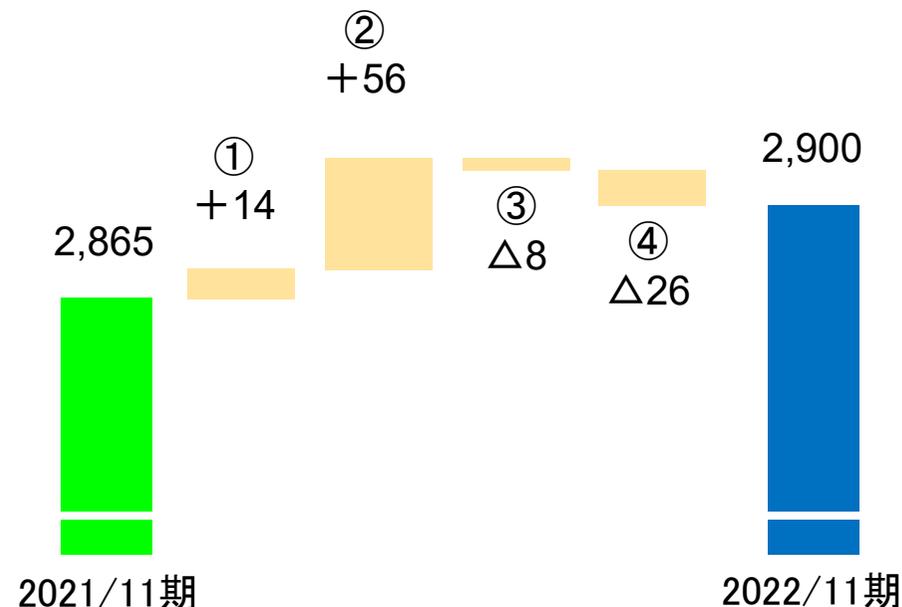
主に樹脂および電子材料分野の販売拡大により増収の見込み(「収益認識に関する会計基準」の適用による影響額は△350百万円程度を見込む)

③繊維資材事業 +141百万円

産業資材分野の車輛用途用の製品開発や営業推進により増収の見込み

④その他 +1百万円

営業利益増減要因



①農薬事業 +14百万円

コロナ状況改善を見込んだ活動増や農薬の再評価制度にかかわる委託研究費などの販売費及び一般管理費は増加はするものの、前期比では改善となる見込み(再評価関連費用:委託研究費+53百万円、手数料+22百万円)

②ファインケミカル事業 +56百万円

主に増収により、増益となる見込み

③繊維資材事業 △8百万円

新基幹システム稼働による償却負担等により減益となる見込み

④その他 △26百万円

のれん償却額△39百万円(前期同額)等



□ セグメント別連結業績予想

		2021/11 実績	2022/11 予想	増減	増減率	見込み (百万円)
農薬事業	売上高	24,121	24,400	+279	+1.2%	国内販売における海外からの原材料入荷遅延の解消に加えて、自社原体(イプフェンカルバゾン等)品や園芸新剤の拡販等により増収の見込み。新剤である楽粒(高拡散性粒剤)の販売も開始予定。なお、「収益認識に関する会計基準」の適用による影響額を△650百万円程度を見込んでいる(利益に対する影響額は軽微)
	営業利益 (利益率)	△214 (△0.9%)	△200 (△0.8%)	+14	—%	経費増加(約300百万円)により営業損失を見込む(主な対前期比増加項目 計264百万円) 委託研究費・手数料+92、新工場関係+37、減価償却費+41、広告費+22、運賃等+29、退職給付費用+43
ファインケミカル事業	売上高	14,659	14,950	+291	+2.0%	樹脂および電子材料の拡販により増収の見込み なお、「収益認識に関する会計基準」の適用による影響額を△350百万円程度を見込んでいる(利益に対する影響額は軽微)
	営業利益 (利益率)	3,044 (20.8%)	3,100 (20.7%)	+56	+1.8%	主に増収により、増益となる見込み
繊維資材事業	売上高	1,489	1,630	+141	+9.5%	産業資材分野の車輛用途等の製品開発や営業推進により、増収となる見込み
	営業利益 (利益率)	38 (2.6%)	30 (1.8%)	△8	-21.1%	新基幹システム稼働による償却負担等により減益



【参考資料】 2021年11月期決算時系列データ

□ 連結業績

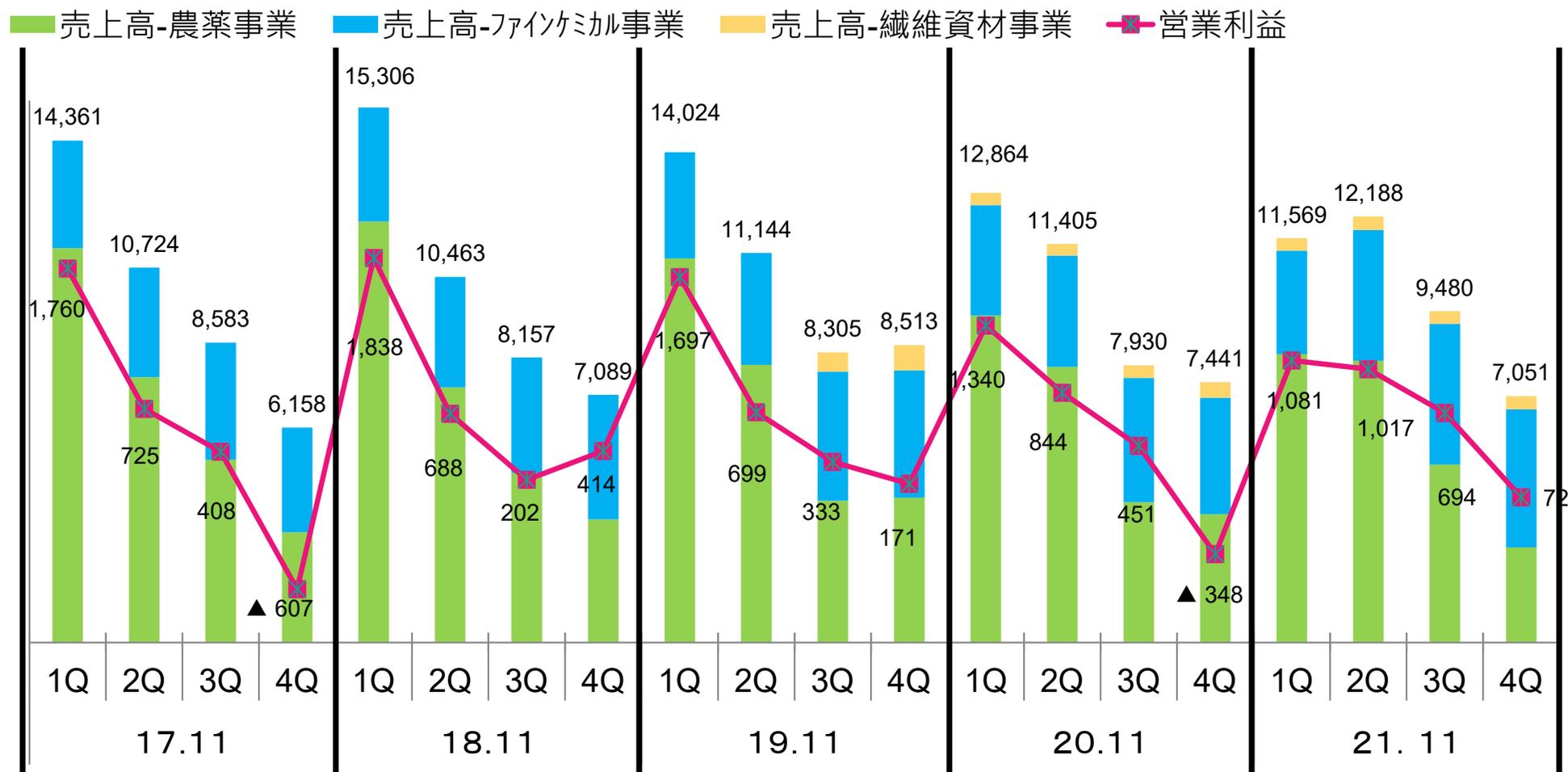
(百万円)

	2017/11	2018/11	2019/11	2020/11	2021/11	前期比	増減率
売上高	39,826	41,015	41,986	39,641	40,287	+647	+1.6%
営業利益	2,286	3,141	2,902	2,287	2,865	+578	+25.3%
経常利益	3,541	4,081	3,751	3,258	3,843	+585	+18.0%
当期純利益	1,989	2,944	2,818	2,400	2,927	+527	+22.0%

◆為替レート(1米ドル=)・・・ 2021年:108.86円、2022年:110.00円

□ 連結業績（四半期毎の推移）

（百万円）

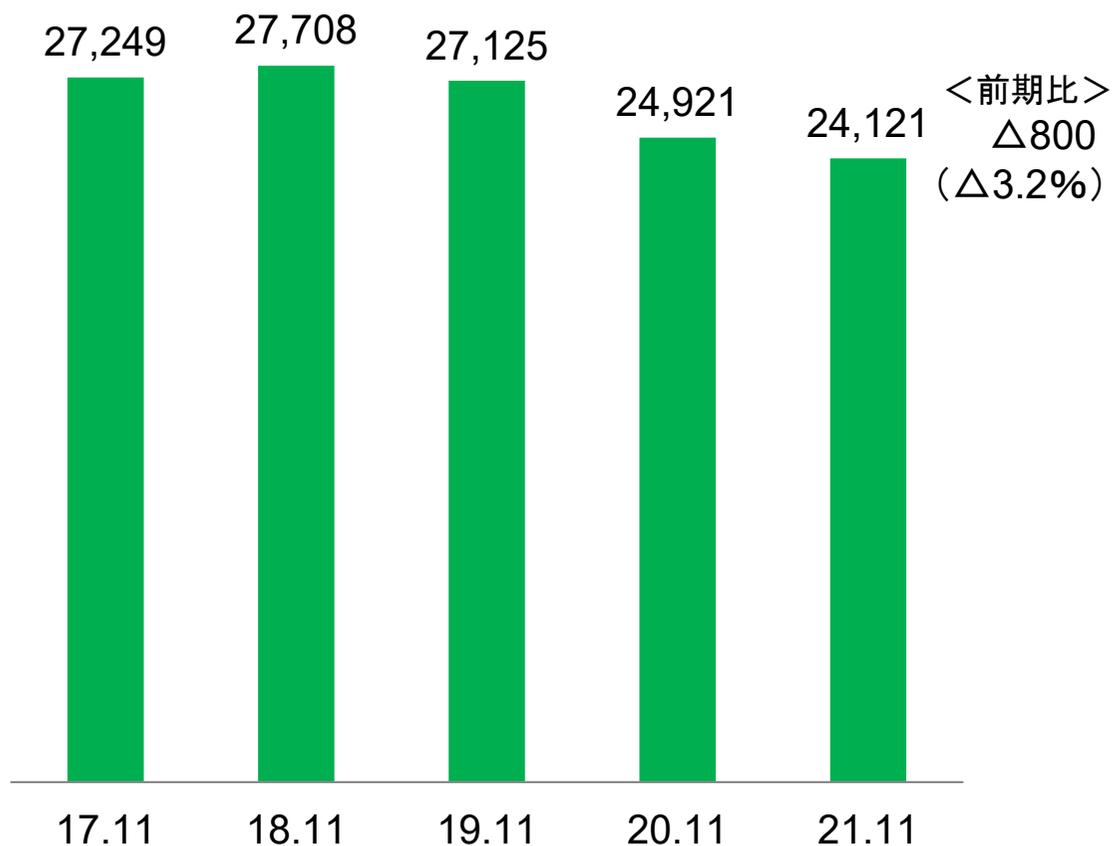


- 農薬の需要は季節性があることから、当社の売上・利益はそれに合わせて第1四半期がピークとなり、第2四半期以降は減少する事業特性がある
- 2021年度は、農薬事業における海外からの原材料入荷遅れの影響があり、水稻用育苗箱剤の減少により、売上高は第2四半期がピークとなった

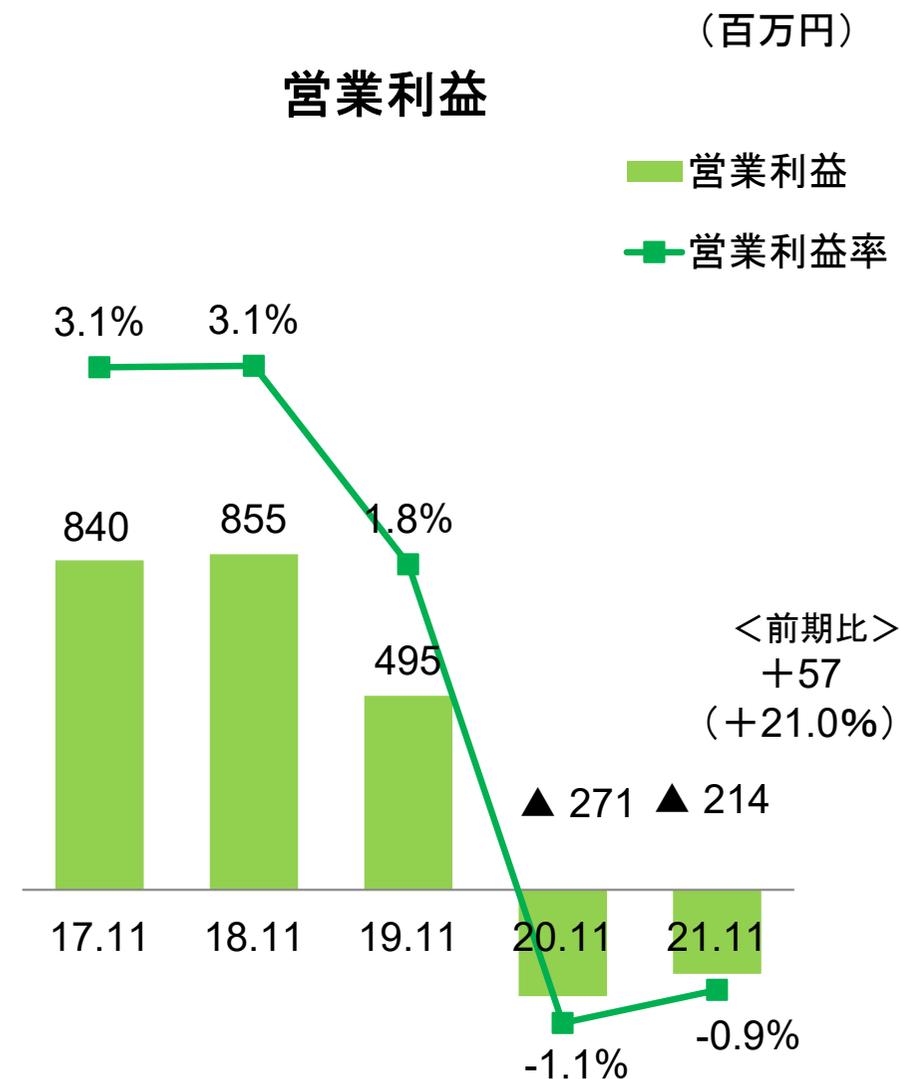
□ セグメント別業績

農薬事業

売上高



営業利益

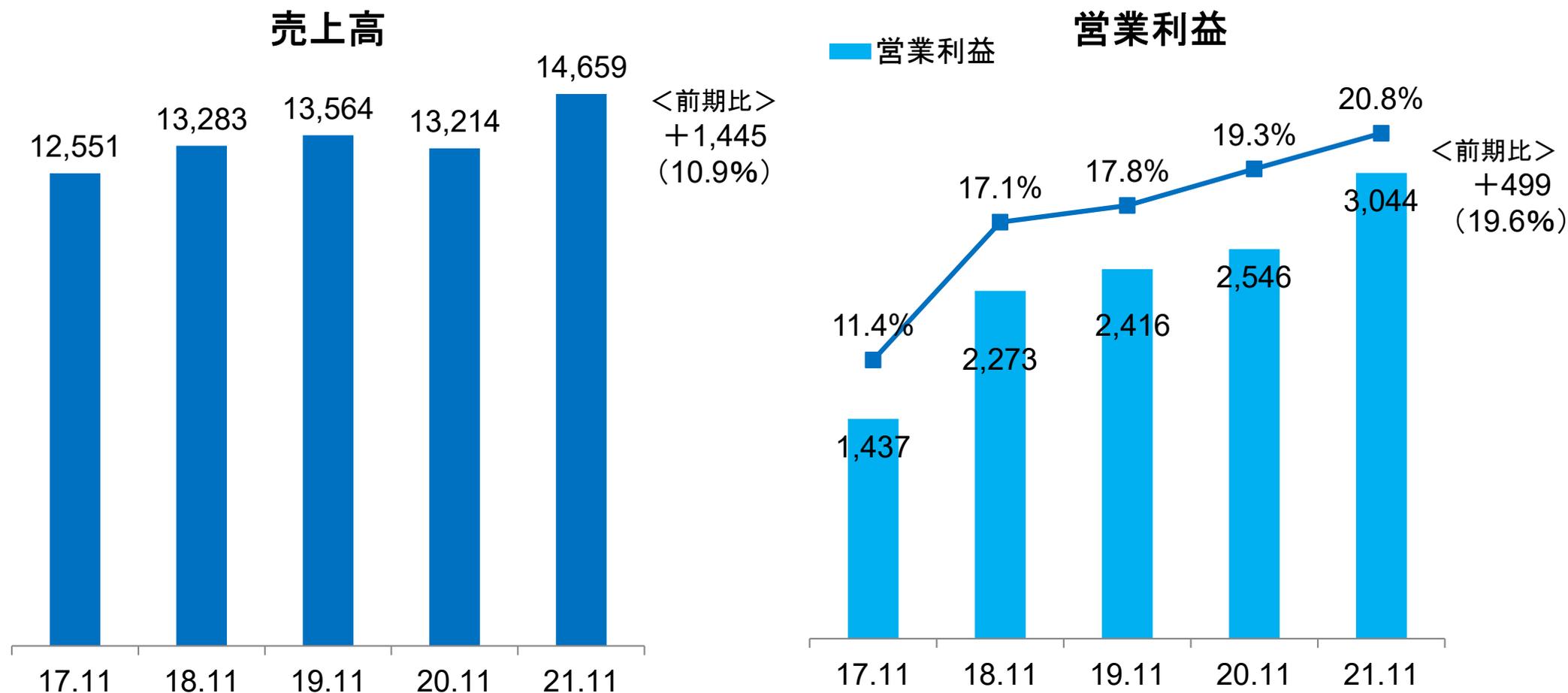


➤ 営業利益は、売上高が海外販売におけるアジア向けの増加があった一方で、国内販売において水稲用育苗箱剤の海外からの原材料入荷遅延等により減収となったことから損失計上となったが、今後回復が見込まれる



セグメント別業績 ファインケミカル事業

(百万円)



➤ 主要3分野(医農薬、電子材料および樹脂)の販売が順調に推移したことから、前年同期比で増収となり、かつ営業利益率も20.8%へ向上(前年同期比+1.5%)した

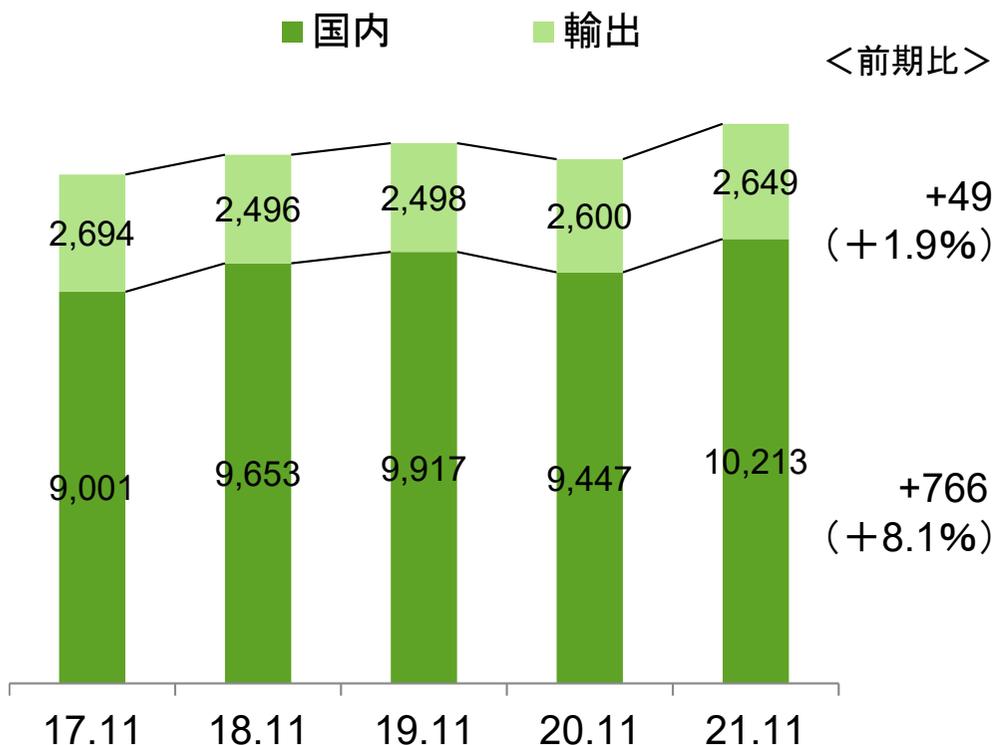
□ セグメント別業績

ファインケミカル事業

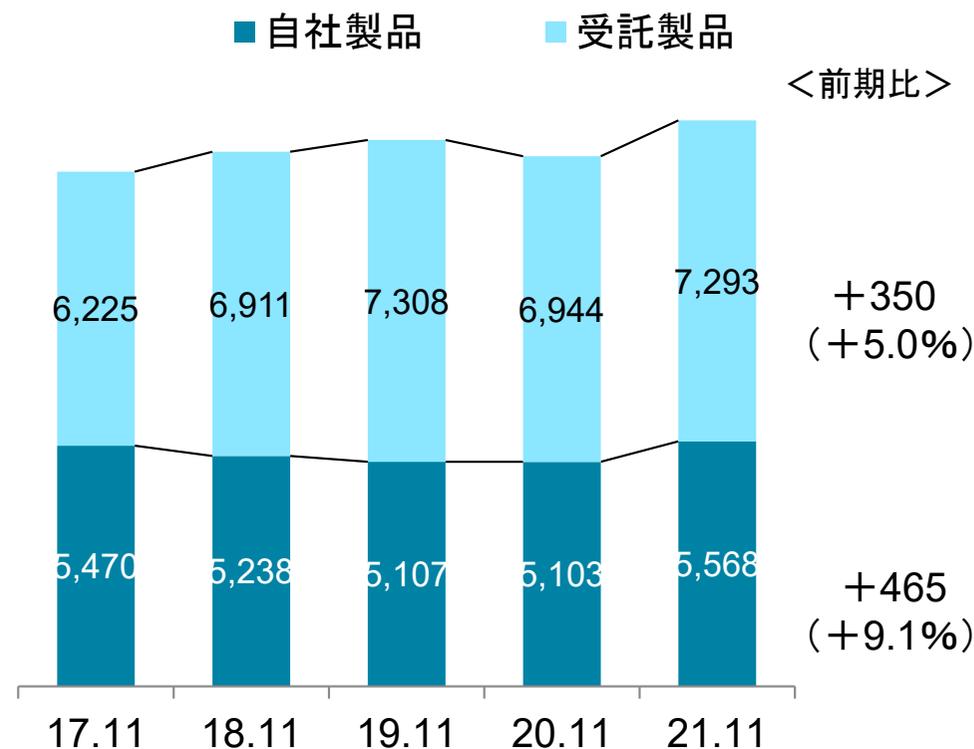
(国内輸出別・自社受託製品別売上高)

(百万円)

国内・輸出別(個別)



自社・受託製品別(個別)



- 2021年度は、輸出は前年並みとなり、国内は主要3分野(医農薬、電子材料および樹脂)の販売が順調に推移したことから、全体では大幅な増収となった
- 自社製品では電子材料および樹脂分野、受託製品では医農薬分野が主に増加した

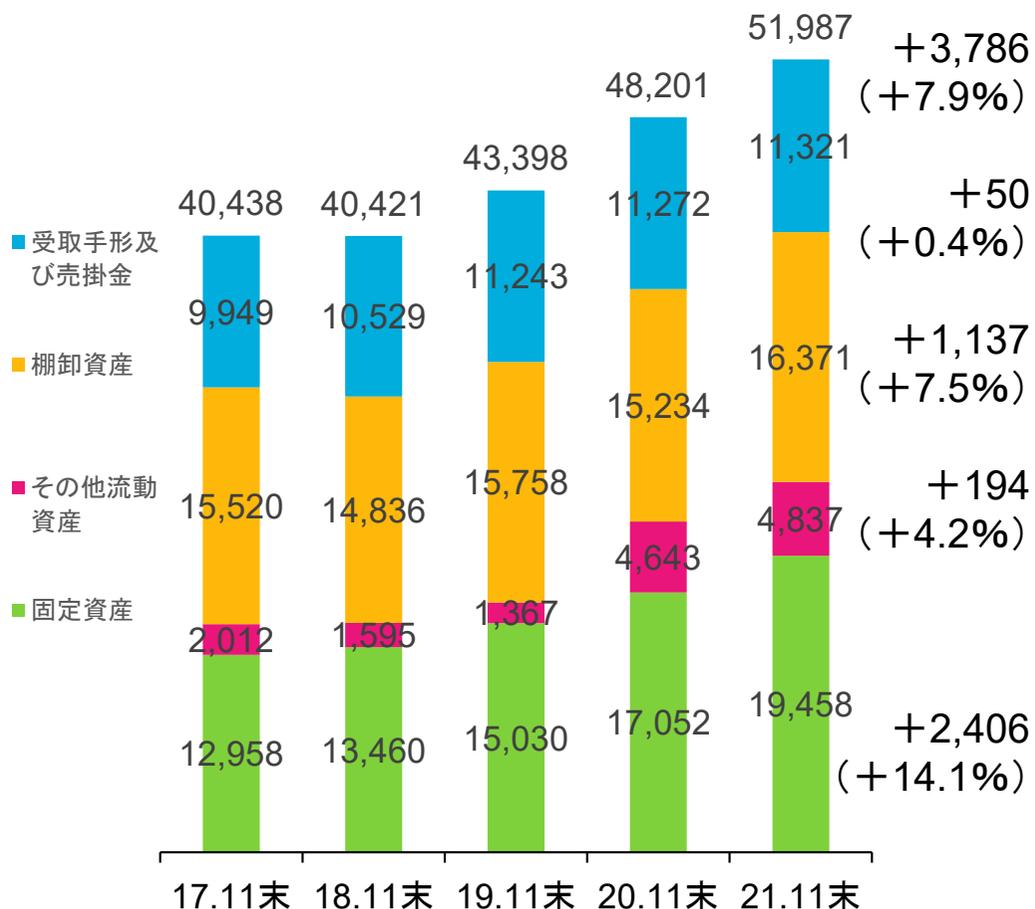


□ 連結B/Sの推移

(百万円)

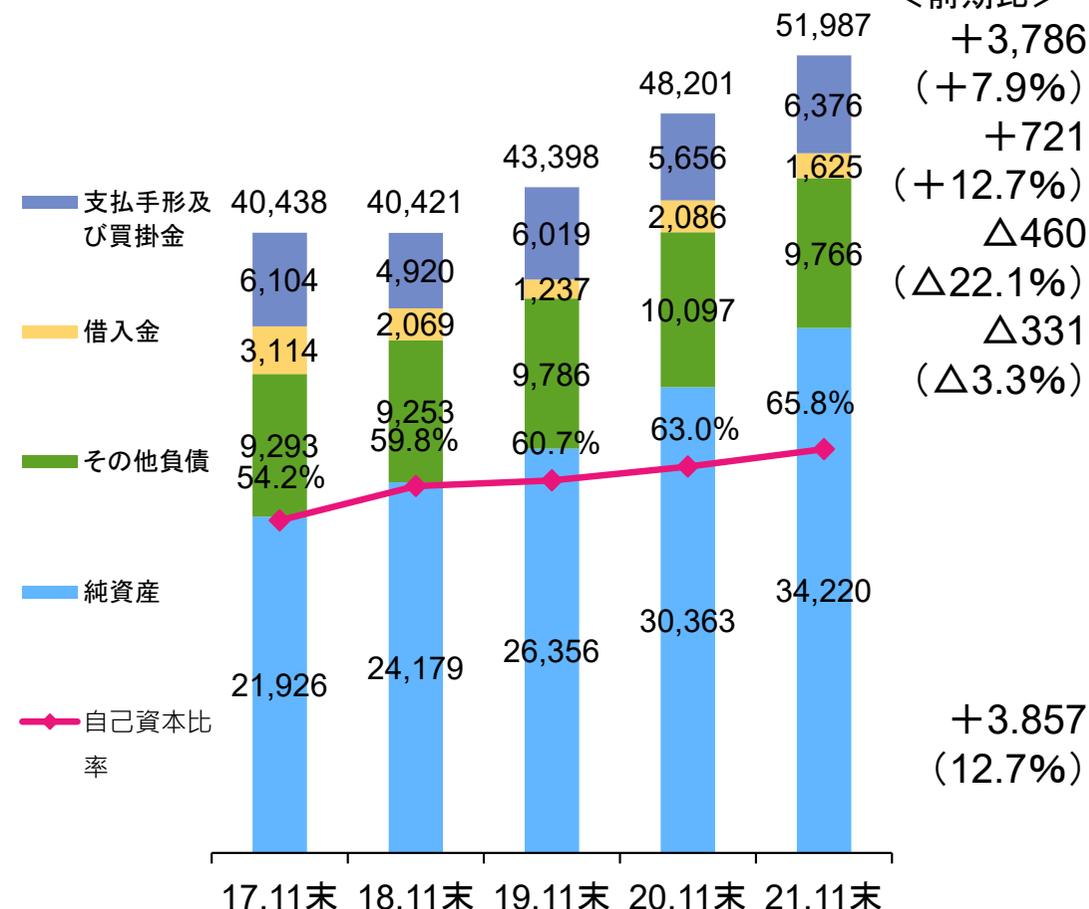
資産の部

<前期比>



負債・純資産の部

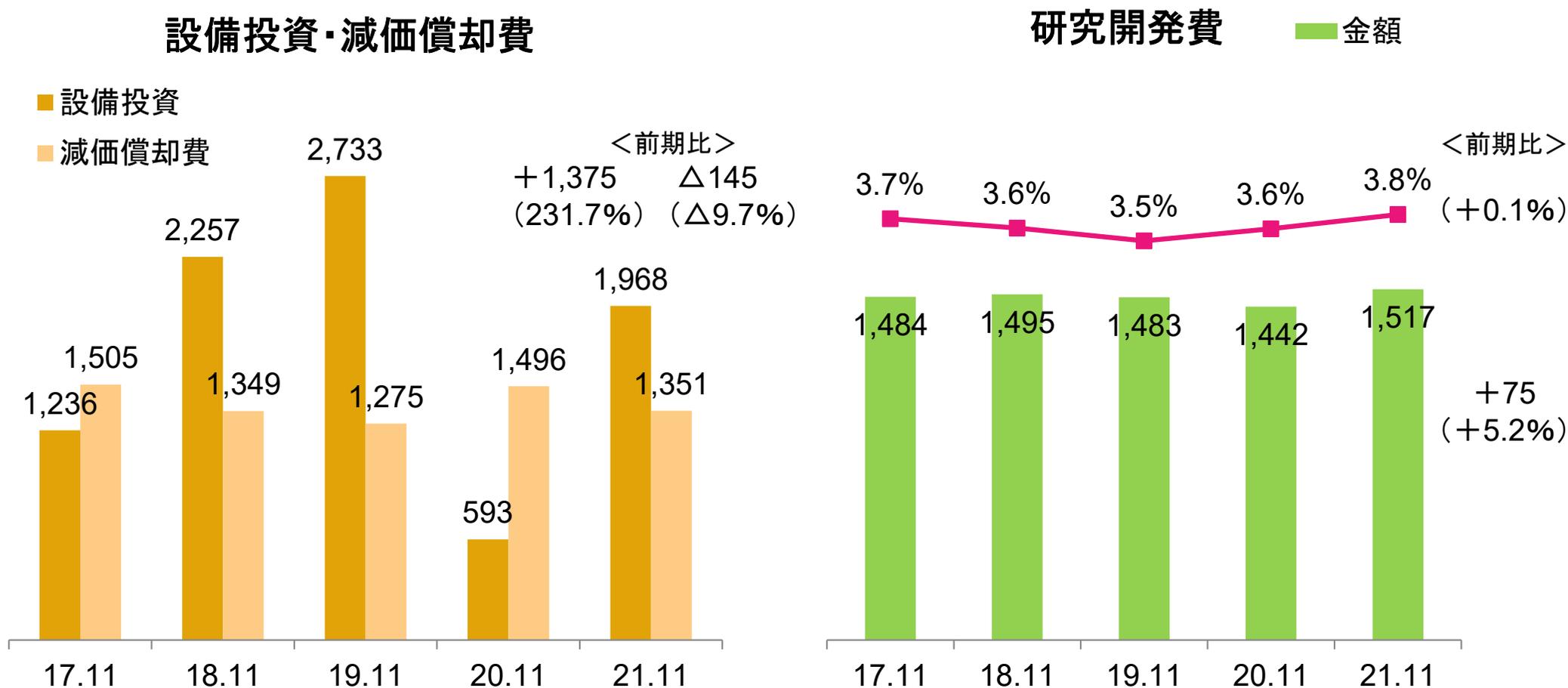
<前期比>



- 利益の積み上げにより、自己資本比率は65.8%に上昇
- 自己資本比率は2011年11月期より11期連続上昇

□ 設備投資・研究開発費の実績

(百万円)



＜設備投資 補足説明＞

- 2018年11月期については、岡山工場合成第9工場(464百万円)、新潟工場管理棟(289百万円)を含む
- 2019年11月期については、岡山工場合成第9工場(1,856百万円)、排水対策設備(148百万円)を含む
- 2021年11月期については、北海道新除草剤工場(988百万円※を含む)※建設仮勘定計上額

【設備投資内訳】戦略的設備投資 988百万円、通常設備投資 980百万円



本資料に記載されている業績予想に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて算定したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

■ お問い合わせ先

北興化学工業株式会社

企画部 IR担当

電話：03-3279-5151

FAX：03-3279-5195